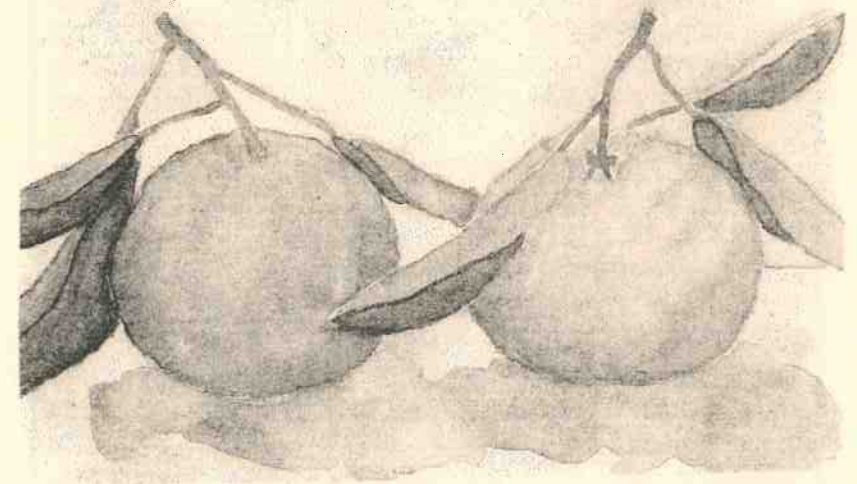


ふれあい 雪谷

平成15年
もみじ号



(希望ヶ丘 鈴木 孝一さんの作品)

母校の思い出 ⑮ 転校

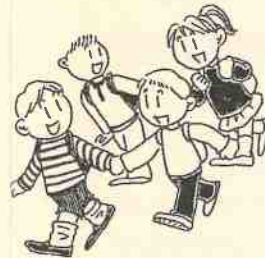
小学校4年の時に初めて転校することになりました。小さな子どもにとって、それはそれは大きな事件で、不安で一杯でした。黄色い帽子をかぶること、自転車に乗るのにライセンスが必要なことなどガラッと環境が変わりました。最初は友だちもいないし、怖かったことを覚えています。

さて、当時毎朝出席をとるのですが、私の名前が呼ばれません。恐らく中途転入なので名簿ができていなかったのでしょう。新しい名簿ができるまでなのでしょうか。ささいなことですが子どもながらものすごく悲しかったので、もうこの小学校をやめたくまりました。今思えば笑ってしまうようなことですが、仲間に入れてもらえていないような疎外感を感じ、本当に落ち込んでしまいました。もちろん、当時の学校の先生に悪意があったわけではないのですが、子どもながら意地悪されているような気になったものです。

子どもたちの心は傷つきやすいものです。われわれ大人は子どもたちの心を傷つけないように、優しい心遣いで守ってあげたいと思います。私も小児を診療するときには特にそう自分に言い聞かせていますが、子どもたちから見たら一体私はどんな医者なのでしょう。自分が大人になっても遠い昔の記憶を大切にして、子どもたちだけでなく、すべての人に優しい気遣いを忘れてはならないと戒めています。

その後は名前も呼ばれるようになり、友だちもでき、洗足池でザリガニを釣ったり、お祭りに行ったり、楽しい思い出ばかりです。思う存分遊んでちょっと勉強して…またあの頃に戻りたいのは、私だけではないでしょう。

(池の台 宮本 俊哉)



サークル紹介 22 がんばってます!

雪小ベアーズ

雪小ベアーズは、雪谷小学校の女の子たちで構成されているソフトボールチームです。

現在部員は一年生から六年生まで合計十三名で、学校が休みの日に活動しています。初めはボールが飛んでくると逃げたり、ボールに当たると痛くて泣いていた子どもたちもいました。しかし監督やコーチの御指導のもとにソフトボールの楽しさを体験し、馴れてくるに従って積極的にボールに向かっていくようになりました。低学年の子は高学年のお姉さんに励まされながら、辛い練習を乗り越え心も体も大きく成長していきま

す。



今年は六月の田区大会で準優勝をしたため、八月の元氣カップ東日本大会に出場する権利を得ることができました。

八月十日に福島県で試合が行われ、一回戦は三対二で埼玉代表のチームに勝ち、二回戦は残念ながら一対二で栃木代表のチームに負けましたが、総合三位という素晴らしい成績を収めました。

地域の皆様の温かい応援のもとにこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(希望ヶ丘 小宮 久美子)

私の健康法⑮

街でゆっくり歩いている老婦人と出会いました。いろいろと伺っているうちに自分の健康法について話してくださいました。

『私は今年九十三歳になりました。趣味で華道と民謡をやっています。舞踊は長い間続けていましたが現在は腰を痛めて休んでいます。』

庭で大好きな草花の手入れをしたり、足が弱らないように毎日家のまわりをゆっくりと散歩

しています。

出来るだけ自分でやれることは何でもやるように心がけていますが無理をしないで、一人住まいのため他人の援助も有り難く受け取るようにしています。』とのことでした。

「ご婦人の心掛け・生活態度など、たいへん美しく感じました。」

(東中 M-T)



「編集後記」

編集委員になって二ヶ月。「ふれあい雪谷」を、ささやかながら盛り上げていきたいと考えています。少しでも多くの方に読んでいただくために、頑張ります。今回も、読みごたえのある原稿をお寄せいただきありがとうございます。次回にむけて、身近な情報・ハッピー話・おもしろ話・表紙の絵・俳句など何でも結構ですので、投稿をお待ちしています。

(東雪 松尾 勝子)

【発行】わがまち大田雪谷地区推進委員会
【編集】ふれあい雪谷編集委員会
連絡先 雪谷特別出張所
大田区東雪谷四一三一二三
電話 二七一九一五二一七
【発行日】平成十五年十月一日
通巻第五十二号

編集委員さんが代わりました。
東雪(新) 松尾 勝子(旧) 直井 和子
よろしくお願ひします。

シベリヤ抑留の思い出「帰心矢の如し」

昭和19年3月20日、桜の花が咲き始める頃、在郷軍人会直井伊助様はじめ、近所、勤務先の方々の歓呼の声に送られて、洗足池駅より東部六部隊へ入隊。当年19歳、軍衣・兵器を渡され4月1日品川駅より北満孫呉へ。途中列車の窓より我が家の方角を見る。

連隊砲中隊配属。一期の検閲を無事終り、8月、7号作戦で南方レイテへ動員下令。遺言を書く。私の家は男1人という事で残される。第17航空情報部隊、竜鎮へ転属、無線教育を受ける。

8月15日、隊の無線で天皇の終戦放送を聴く。部隊本部のあるチチハルへ行く途中9月初め北安飛行場にて武装解除。格納庫で半月余り、帰国ということで行軍開始。十字路で左へ行けば祖国、右へ行けばシベリヤ、隊は右へ曲がるなり、がっかり。行軍1ヶ月余り黒竜江を渡り貨車に乗せられ着いた所が、イズベストコウバヤ（石灰の町）。石灰の釜たき、線路工事、伐採運搬の重労働3年余、帰れるものなら歩いてでもと、語り合う。

入ソ1年位はドロドロしたコウリヤン、酔っぱいロシヤパン、レンガみたいなパンを当番の人が裁断する。大きい小さいの苦情が出る。最後はジャンケンで勝った者より腹持ちのよいパンの耳から持って行く。ある日炊事場の使役に行くと、大きい釜のスープのだしとして馬の頭が浮いている。ロシヤ人の肉の目方のごまかし、でも腹が空いているので食べてしまう。2年目位からは食事も多少改善される。

昭和23年11月突然ダモイ（帰国）の知らせ。4日程貨車にゆられナホトカ港着。船を一週間待つ。待望の乗船一列に並びロシヤの係官が名前を読み上げる。呼ばれたものは棧橋に駆け足で船中へ。「帰心矢の如し」である。呼ばれない者はまた、収容所送りとか。

船中2泊では皆笑顔。故郷の話、家族の話、中には踊り出す者も。舞鶴上陸。棧橋両側に看護婦さんが多数白衣に口紅をつけて出迎え。何年ぶりであろうか女の人の美しさを見るのは。帰国の手続をすませ、900円の旅費を支給され当分生活できると思い京都駅で好物のリンゴ1個30円とは驚き。品川駅で女学生の出迎えをうける。「兵隊さんお家はあるの」と、氷砂糖をくれた。地図では焼け野原と書いてあったが、母は6ヶ月前に亡く、私の戦死の公報、戸籍も抹消される。23年11月復活。軍人恩給は4ヶ月不足で、欠格者。抑留生活のつらい夢を見ることがあったが、現在は妻子・孫に囲まれ幸せな余生を送っている。

（東雪 永久保 参吉）

お詫びと訂正

7月1日付あさがお号にて下記の訂正がありました。

【蛍の送り火で「おひょう様」を送った盂蘭盆会の思い出】にて、
1行目…（正）昭和10年代初め（誤）昭和13年代初め
9行目…【「新編武蔵国風土記稿」には】の前に、【徳川時代末の文政11年編纂された】と入ります。

11行目…（正）猿多く在りし（誤）猿多く住りし

訂正してお詫びいたします。

襦（タスキ）

先日大森六中のPTA歓送迎会の際、新会長の挨拶の中に、「前役員さんは、次期役員さんに無事タスキを渡すのが役目」というお話をされておりました。

そのタスキについて少し、お話を書いてみます。今日タスキといわれて大勢の皆様はなにを思い浮かべますか？

当日のお話で「つなぐ」という意味で、リレーを頭の中で想像されたことと思います。少し前まではお掃除の時の着物のタスキ掛けが見られましたが、現在では宣伝写真の中にお茶摘み姿を見る程度です。近頃では各種コンテストの優勝者、そして選挙時の候補者タスキが見られます。

南の国タイに行った折りホテルのフロントの女性が装飾としてタスキを着用しておりました。タイでは仏教国として、奉仕者の礼装として、残したファッションの一つと見受けられます。神道や仏教の世界にも残っています。お坊さんも首から下げております袈裟の姿は気がつきにくいものですが、皆様もきっとご覧になっておられます。

勲章にもタスキ形がございますが、十文字の沢山の勲章をさげた写真をみたことがおありかと思ひます。

最後に現在の世の中が、交互のタスキならぬ「タスケあえる社会」となることを期待して止みません。

（小池 豊田 洋一）



美しい環境づくり⑨

私の家は、中原街道に面し一年中交通の騒音に悩まされております。街道筋ということも有り種々な問題もあります。

①はタバコの吸い殻です。雨が降らない限り家の前の歩道を毎朝掃除をしております。しかし吸い殻の無い日は有りません。タバコを吸うのは各人の勝手かもしれませんが、町を汚す事とは違うと思います。千代田区が実施している「ポイ捨て禁止条例」を大田区でも実施してほしいものです。

②は放置自転車です。勝手に処分することにも出来ず困ったものです。荷物入れがごみ入れの代用となり、雑誌、かんなどが入れられております。

③は道路上照明灯用ポールなどに取り付けている通称「捨て看板」です。当町には、大変律義な方がおりまして毎日町内を見回りそのようなものを、全部取り外してまわっております。町の美化という観点からすればこの「捨て看板」は見苦しいものの一つと言えますし、一時的にでも広告として公共のものを利用して言葉のとおり捨ててしまっ、片付けないのは勝手過ぎないでしょうか。

最後に、歩道を利用して「車」などを展示し商売をしているとか、修理などをしているのを見かけます。これなどは、美観の問題以前で、交通の障害にもなり自転車との事故にもつながりますので、ぜひ是正して頂きたい問題です。



（石川台 永久保 勝美）

自治会リレー随筆

自然の恵み

私はお姑さんと主人を続いて見取り、その後ひどく体調が悪く、毎日寝たり起きたりの日を過ごしていました。

いつも頭が痛くて何度検査をしても、別に異常はありませんと診断されました。

そんなある日新聞を読んでおりますと“皆さん外へ出ましょう。五感を使って楽しく歩きましょう。ゆっくりでいいんです”という記事と、森林浴をしている年配の方々が楽しそうに歩いている写真が出ていました。そうだこれだと思いました。

まずはゆっくりと草花を眺め、また池の中を見ながら洗足池を1周しました。何と気持ちが良いすがすがしい事、それだけで1日が気持ちよく過ごせるようになりました。それから2・3日に一度行くようになりました。

朝早く行くと公園の中でラジオ体操をやっている皆さんはとてもお元気そうです。

私も少しずつ元気を取りもどしたので、コースを広げ洗足池の駅の裏の川沿いを歩いていたら川の中にきれいな大きな鯉が沢山泳いでいました。川の中もショウブや可愛い花があつてとてもきれいです。

男の人が水でジャブジャブ洗っては何やら束ねていますので、尋ねますとこの川で採れたセリとクレソンだそうです。皆さんで分けていただくそうで 区長さんにもおすそ分けするそうです。私にも少し分けて下さいました。その香りのいいセリとクレソンに本当にびっくりしました。わざわざ遠くへ行かなくてもこのような自然の恵みをいただけるなんて、なんて幸せな事でしょう。

これからも自然を見つけて私流に歩きたいと思ひます。

（笹丸 K・T）

俳句

母の眼は 遠くへ動く

（小池 信太 史花）

漆黒の 山ふところの

（小池 永島 唯男）

短歌

お会式の 万灯賑わう 本門寺

（小池 須藤 美津子）



この情報誌は古紙100%の用紙を使用しています。